

雑草イネについて ～収穫した粃に「赤色の種子」が混じっていませんか？～

近年、県内各地で雑草イネの発生が確認されています。

雑草イネは、脱粒性が高く、こぼれた種子が水田で越冬して世代交代を繰り返すイネです。また、雑草イネの種子は、赤色や褐色に着色しているため、着色粒として扱われ、収穫玄米に混入する被害が問題となっています。

雑草イネによる被害を防止するためには、早期発見と速やかな防除対策が必要となります。

1 雑草イネの見分け方

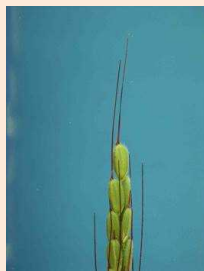
雑草イネのまん延を防ぐには、早く発見して発生数が少ないうちに防除することが大切です。発見するポイントは、以下の3点です。

(1) 出穂した穂の様子が植えたイネと違う (2) 粃が落ちやすい

(芒の有無・草丈・草姿など様々なタイプ)



↑ふ先色がある
タイプ



↑芒がある
タイプ



↑風などで
粃が落ちる



↑穂を一度握るだけで
殆どの粃が落ちる

(3) 粃・玄米の様子が植えたイネと違う



↑雑草イネ (A~G) とコシヒカリの粃と玄米を並べたもの

※写真は中央農業総合研究センター作成「雑草イネまん延防止マニュアル Ver. 2」より引用

2 雑草イネを発見したら・・・

(1) 防除対策

雑草イネを発見した圃場では、早期の防除対策が必要となります。しかし、栽培イネと同じ植物種（イネ科）であるため、水稲除草剤のみによる防除は困難です。

そのため、防除は下記の(1)～(3)を組み合わせる行うことが効果的です。なお、雑草イネがまん延した圃場では、下記の防除を3年継続する必要があります。

(1) 5月下旬以降の代かき

雑草イネの出芽が揃う5月下旬以降に代かきを行い、物理的に枯殺してから遅植えをしましょう。

(2) 除草剤の3回体系処理

移植当日～翌日に初期剤を処理した後、7～10日おきに一発処理剤及び中期剤を処理し、3剤体系防除で薬剤の切れ目をなくして遅発個体を枯殺しましょう。

(3) 手取り除草の効率化

上記(1)、(2)の対策で取りこぼした雑草イネは、脱粒が始まる前（出穂2週間以内）までに手取り除草を行いましょう。防除対象の雑草イネと比較して、稈長及び出穂期に差がある栽培品種を作付けすると、効果的に手取りができます。

※雑草イネに有効な除草剤は、公益社団法人日本植物調整剤研究強化ホームページに掲載されている「雑草イネ有効剤として実用化可能と判定された水稲用除草剤」
(<https://viewer.kintoneapp.com/public/31fbbb2ea8d356ea274bc037afee4267cf4a8675ee2dee10824c7b075f404a40#/>)をご覧ください。



(2) 圃場作業における注意点

雑草イネの籾は、圃場の土壌と一緒に農機に付着してしまいます。籾のついた農機を使用することで、他の圃場に雑草イネが侵入することがあります。

雑草イネ確認圃場での機械作業は、出来るだけ雑草イネ未確認圃場での作業終了後にしましょう。また、雑草イネ確認圃場で使用した農機は洗浄を徹底し、未発生圃場への拡散防止に努めましょう。

雑草イネに関するご相談は、坂東地域農業改良普及センターまでお問い合わせください。

農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

なお、使用基準変更の予定がある場合に、メーカー等から変更後の使用基準で使用するよう注意喚起が行われることがあります。その場合は、ラベルではなく、変更後の使用基準に従って使用して下さい。